

鹿兒島紀聞之内 副將村田討死之図

明治十年三月三日、官軍大挙（たいきよ）して高瀬口より進劇（しんげき）すれば、賊兵（ぞくへい）もまた爰（ここ）を専度（せんど）と相戦（あひたゝか）ひ、既（すで）に官軍田原坂伊倉ロハキチジ越（こへ）まで進（すゝ）んだり、大小炮（ほう）の音天に響（ひび）き、叫呼声（おめきさけぶこへ）山嶽（さんかく）に鳴（きこ）へ、或（あるひ）ハ追（すゝ）ミ、あるひハ退（じりぞ）き、出沒奇変（しゅつぼつきへん）の劇戦（げきせん）に、此手の賊將（ぞくしやう）村田「木の葉 砲名」に討（うた）れ其外死傷（じせう）多（おほ）かりける、